

# ■H22 年度実績報告ニテーマ報告<B>

## 学校との連携による普及活動

### —主な関係業務分野 4—

資料は主にH22 年度の『調査報告書』より抜粋

#### <資料>

①地域文化保全普及のための試行実施工程

→ 中学生を対象とした試行実施までの作業の流れを説明している資料

②中学生を対象とした地域文化普及の考え方

→ 貫気別中学校での試行調査を実施するにあたり、私たちの考え方をまとめた資料

③貫気別中学校3年生〔公民〕特別授業プログラム

→ 3年生で実施した授業のプログラム内容をまとめた資料

④プログラムの試行状況

→ 3年生のプログラムの実施状況（授業のようす）を写真でとりまとめた資料

⑤プログラムの視聴覚資料とその活用

→ 3年生のプログラムに向けて作成した視聴覚資料と活用方法の一部を抜粋した資料

⑥プログラム試行後の意見・感想の収集

→ 授業後、3年生の生徒と参観教員からの意見・感想をとりまとめた資料

⑦関係機関等を対象とした意向調査

→ 今後の地域文化の保全や普及に向けて収集した意見や考え方をとりまとめた資料

〔担当ニ木村 真奈美〕

■調査の成果

これまでの調査結果ならびに「平取ダム地域文化保全対策検討会（以下、検討会）」での保全策をふまえ、地域文化保全対策普及方策として活用できるプログラム、視聴覚資料を作成し、試行調査を実施しました。また、試行調査後に意向調査を実施し、意見・感想を収集しました。

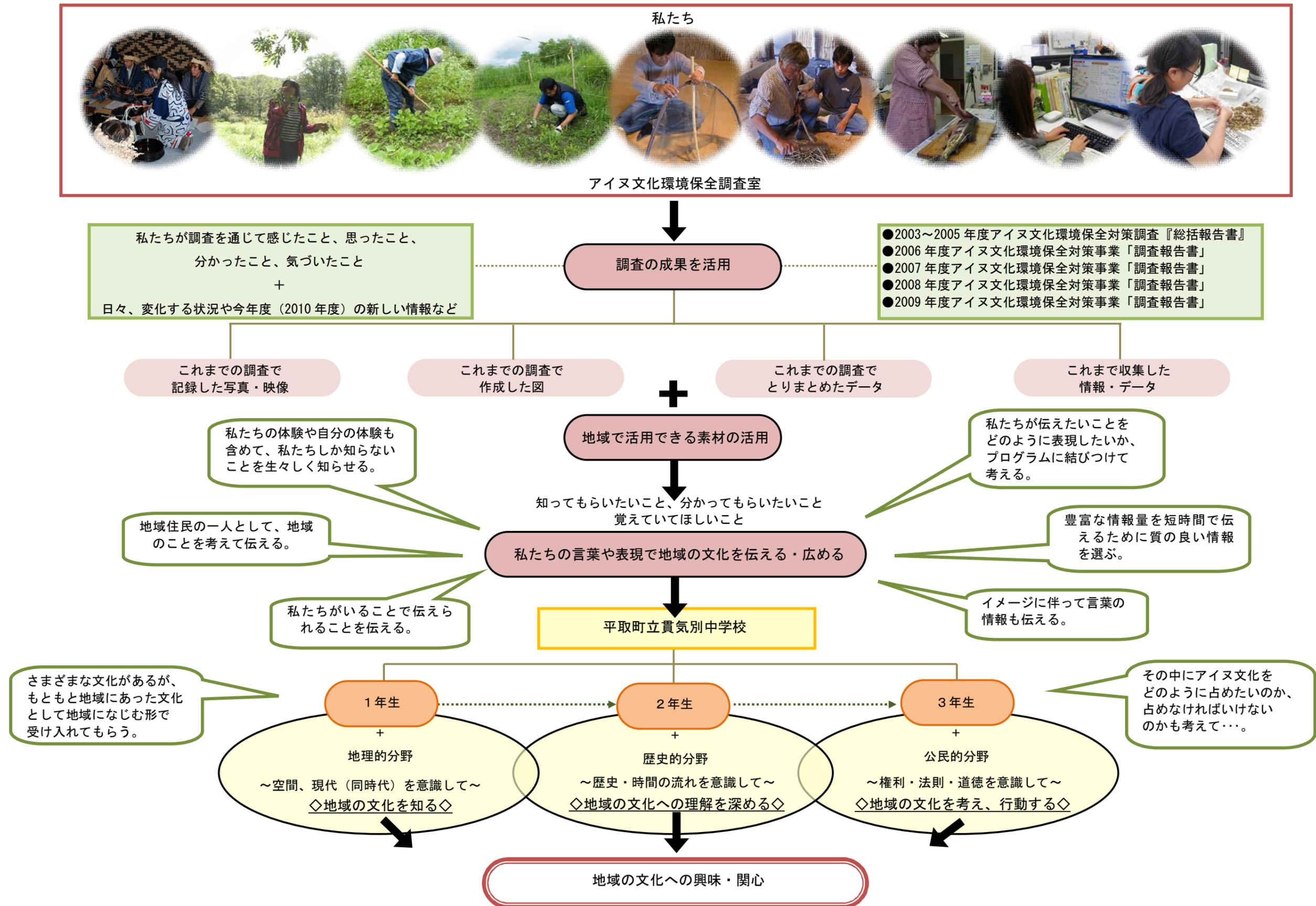
A. 地域文化保全普及のための試行実施工程

ア) 中学生を対象とした試行実施までの作業の流れ



イ) 中学生を対象とした地域文化普及の考え方

今年度（H22年度）、貫気別中学校で試行調査を実施するにあたり、プログラム作成や視聴覚資料を作成する際に重視した点など、私たちの考え方についてまとめました。



## イ) 貫気別中学校3年生[公民]

## ①プログラムの内容

試行実施にむけて貫気別中学校との打ち合せ後、プログラムを作成しました。プログラム作成には、先に示した地域の中学生を対象とした地域文化普及の考え方や2年生の試行後の意見・感想を踏まえ、担当でそれぞれが項目を分担し、内容を作成しました。

実施日：2010年12月13日(月) 5時間目(1:15~2:05) / 場所：貫気別中学校3年生教室 / 生徒数：7名 参観教員：2名				
【学習内容】 地域での調査を通じて考える 環境・文化・人権				
【学習項目】 1-地域の環境を調査し、保全する仕事 2-地域の文化を調査し、受け継ぐ仕事 3-地域の人々と共に人権を守り高める仕事				
時間	流れ/項目	内容	活用教材・教具	具体の発問・説明など
1:15~ (5分)	はじめに  【担当：吉原主幹】	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業の流れ</li> <li>前年度の学習のふりかえり</li> <li>平取町アイヌ文化情報センターの紹介(調査業務紹介)</li> </ul>	[パワーポイント] 前年度、作成したパワーポイントから一部抜粋 調査記録写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の項目担当者の紹介など</li> <li>☆発問：前年度の学習で覚えていることがあるか</li> <li>☆発問：平取町アイヌ文化情報センターに行ったことがあるか</li> </ul>
1:20~ (15分)	1-地域の環境を調査し、保全する仕事から  【担当：平村】	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の環境</li> <li>アイヌの人たちの伝統的な暮らし</li> <li>地域で行われている環境の対策</li> </ul>	[教科書]P144 [パワーポイント] 調査記録写真  [パワーポイント] 図書資料 調査記録写真 [紙資料] 図書資料：キツネのチャランケ  [パワーポイント] 調査記録写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちの調査を通して、感じた額平川流域の環境問題とその影響について説明</li> <li>☆行動：教科書を朗読</li> <li>アイヌの人たちの山菜採取時の心得を紹介</li> <li>アイヌの人たちの昔話を紹介</li> <li>☆行動：物語を朗読</li> <li>平取地域イオル再生事業、アイヌ文化環境保全対策調査で行っている環境の対策を一部説明</li> </ul>
1:35~ (10分)	2-地域の文化を調査し受け継ぐ仕事から  【担当：村木】	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域のさまざまな文化</li> <li>身近な地域の文化</li> </ul>	[教科書]P24~25  [パワーポイント] 文化的景観パンフレット 調査記録写真  [教科書]P22 [DVD] チャクピーヤク(雨燕の踊り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域で見られるさまざまな文化を紹介</li> <li>例1) 文化的景観パンフレットでは多言語によるガイドマップ(日本語版・中国語版・韓国語版)を作成</li> <li>例2) 平取町立二風谷アイヌ文化博物館では、多言語による表示版を設置</li> <li>☆DVD鑑賞</li> <li>映像の解説など</li> </ul>
1:40~ (10分)	3-地域の人々と人権を守り高める仕事から  【担当：木村】	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイヌの人たちのことわざ</li> <li>個人と社会生活のかかわり</li> <li>人権と共生社会</li> </ul>	[パワーポイント] 図書資料 調査記録写真  [パワーポイント] アイヌ文化環境保全対策事業 2010年事業体制概念図  [教科書]P44 [パワーポイント] 図書資料  [DVD] 調査室編集：チブサンケ(舟おろし祭り) 調査記録写真 チブサンケパンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイヌの人たちのことわざから社会生活におけるものの見方や考え方について説明</li> <li>☆行動：ことわざの復唱</li> <li>私たちの事業体制からさまざまな人たちとの関わりや地域社会での生活を営むためのルールについて説明</li> <li>身近な地域の人たちのこれまでの活動や文化を継承する取り組みを説明</li> <li>☆発問：萱野茂さんを見たり、聞いたり、知っている人はいるか</li> <li>☆DVD鑑賞</li> <li>映像の解説</li> <li>チブサンケの紹介</li> <li>☆発問：チブサンケに参加したことはあるか</li> </ul>
1:50~ (10分)	まとめ  【担当：吉原主幹】	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダIPinCHワークショップの紹介</li> <li>ハワイにおける自然環境再生の試みの紹介</li> <li>まとめと感想</li> </ul>	[パワーポイント] 提供データ  [紙資料] ・学習ノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界で行われている環境保全の事例を説明</li> <li>用紙に記入</li> <li>※宿題</li> </ul>



③プログラムの視聴覚資料とその活用

プログラム作成後、プログラムの項目に沿って視聴覚資料を作成しました。作成は、それぞれの項目の担当が作成し、試行で活用しました。ここでは試行で活用後、担当で協議（反省会）をしてバージョンアップした視聴覚資料と活用方法を提示します。また、今後に向けた試行の参考として、“このような教材があったら良かった”“このような質問が効果的だった”等も書き添えました。

作成した視聴覚資料は、今後もバージョンアップ等して活用出来るよう工夫しました。解説した内容もテキスト化し、共に関連資料として電子データ版のみに所有しています。

コメント中の[\*]スライドは、バージョンアップの際、解説した内容を分かりやすく補足するために追加したスライドです。

<p>スライド1</p> <p>地域での調査を通じて考える 環境・文化・人権 —Think globally. Act locally.— 貴気別中学校3年生に向けた 社会科【公民】特別授業 アイヌ文化環境保全調査室</p>	<p>スライド2</p> <p>きょうの授業の流れ ○はじめに [吉原] ○地域の環境を調査し保全する仕事 [平村] ○地域の文化を調査し受け継ぐ仕事 [村木] ○地域の人々と共に人権を守り高める仕事 [木村] ○まとめ</p>	<p>スライド3</p> <p>はじめに</p>	<p>スライド4</p> <p>2年生社会科【歴史】の特別授業でお話したこと 思い出してね 身近な地域の歴史 貴気別中学校2年生に向けて (昨年の授業をふりかえるために映像資料から一部抜粋)</p>
授業のタイトル⇒	今日の授業の流れ⇒	はじめに⇒	前年度の学習のふりかえり⇒
<p>スライド5</p> <p>みんなには身近な景観</p>	<p>スライド6</p> <p>その景観の中には地域の歴史や文化がさまざまに</p>	<p>スライド7</p> <p>◆額平産アオトラの石器による丸木舟づくり 一歩踏み込んで調べてみるとアオトラの石を使った石器の道具が丸木舟づくりに利用されていたことを復習。</p>	<p>スライド8</p> <p>アオトラ石を通じて、あの三内丸山遺跡とつながりが</p>
前年度活用した素材や映像がそのまま使用できたので便利だった。	みんながいつも見ている風景。 その風景の中には地域の歴史や文化がいろいろ読み取れるということを復習。	一歩踏み込んで調べてみるとアオトラの石を使った石器の道具が丸木舟づくりに利用されていたことを復習。	青森にある縄文時代の三内丸山遺跡と繋がっていたことを復習。
(学習のふりかえり①) ⇒	(学習のふりかえり②) ⇒	(学習のふりかえり③) ⇒	(学習のふりかえり④) ⇒
<p>スライド9</p> <p>この地域には人々の長く深い歴史がある</p>	<p>スライド10</p> <p>さまざまに語りつがれてきた数多くの物語がある</p>	<p>スライド11</p> <p>◆平取(5060)の拠点・アクセス図 ◆二風谷(5060)のミュージアム</p>	<p>スライド12</p> <p>わたしたちの調査・研究、活動の拠点 平取町アイヌ文化情報センター</p>
この地域には人々の長く深い歴史があるということを復習。	形があるものだけではなく、風景の中の岩に刻まれたものにも実は、物語があって、とても豊かな文化があるということを復習。	私たちの仕事場の拠点とその周辺のミュージアム群を紹介。	2010年8月8日にオープンしたアイヌ文化情報センターの紹介と私たちの仕事場のようすを紹介。
(学習のふりかえり⑤) ⇒	(学習のふりかえり⑥) ⇒	平取町の位置、二風谷のミュージアム群の紹介⇒	私たちの調査・研究、活動の拠点⇒

④プログラム試行後の意見・感想の集約

プログラム試行後、意見・感想等を収集しました。試行を実施した生徒には、学習ノートとして当日の参考資料と共に配布しました。学習ノートは、授業中に分かったこと、今日の授業の意見や感想の項目欄を作成し、授業中や授業終了時に記入してもらい、後日までの宿題として教科担任の先生に回収していただきました。集約した意見・感想等は、項目ごとに整理しました。

また、参観教員の方々からは試行終了後、意見・感想をお聞きし、今後に向けたアドバイス等もいただきました。

●生徒の意見・感想（生徒数：7名）

《授業中メモ》  
授業中わかったことを書く

＜1-地域の環境を調査し、保全する仕事から＞  
・イオル再生事業など身近なことなのに今まで知らなくて、すごく興味をもてる内容だったので今日この授業で知ることができて良かった。

＜2-地域の文化を調査する仕事から＞

＜3-地域の人々と人権を守り高める仕事から＞  
・アイヌのことわざはとても深く良いものだった。  
・チプサンケというものは名前しか知らなかったけど、今回学んだ。興味を持った。  
・全ての物に役目がある。  
・ことわざ、チプサンケの意味。  
・チプサンケ（着水式のこと）。

＜全体を通して＞  
・アイヌ文化について外国の人にも興味をもっていることは、すごいことだし私自身、初めて知ったのでとても良い経験だった。  
・自分の住んでいる地域の方がよりわかるようになってよかった。  
・アイヌ民族の生活や今までの活動のことがわかった。  
・アイヌ文化環境保全調査室の方々がふだんどのような活動をなさっているのかや、アイヌ語でこれはどのような意味をもっているのか、キツネのチャランケは、どういう話なのかということがわかりました。

《授業を終えて》  
授業の感想や意見を自由に書く

＜1-地域の環境を調査し、保全する仕事から＞  
・「キツネのチャランケ」と言う物語が、とてもおもしろかったし、最後の3文は何かおもわせるような文だった。

＜2-地域の文化を調査する仕事から＞  
・チャクピヤーク昔、一度だけ踊ったことがあり、なつかしいと思ったし、どんな意味があつて踊ったのか知れて良かった。  
・チャクピヤークの踊りなどを考えたアイヌの人たちはすごいなと思った。

＜3-地域の人々と人権を守り高める仕事から＞  
・身近な歴史を学べて楽しかった。

＜全体を通して＞  
・いままでアイヌ文化について興味を持って深く真剣に考えることはなかった。でも今回の授業を通してたくさんのことを学んだ。特に印象に残ったのは「カント オロワ ヤク サクノ ア・ランケフ シネフ カ イサム」このことわざは、自殺しようとしている人やこまったり、迷ったりしている人にはすくいのことわざだと思うので、これからの人生でいかしていければ良いと思った。高校生活で自分が人生に迷ったりしたら、このことわざを思い出して、勉強や部活にはげんでいきたい。本当に今回の授業に参加できて良かったし、良い経験になった。アイヌ文化環境保全調査室のみなさんには心から感謝したい。  
・来年からも後輩達のために続けてほしいと思いました。  
・すごくわかりやすい説明であらためてアイヌについて興味がでてきた。  
・去年もあったけど、アイヌのことがもっと深く知りたくなりました。  
・今日、この授業で知ることができたことをこれからずっと覚えていきたいし、興味をもった内容をこれから深めていきたい。  
・たくさんの人に自分の住んでいる町を教えられるよう平取についてもっと知りたいと思った。  
・アイヌの人々は人も生態系の一員であるという自覚があるような気がした。生活までいかになくとも、その精神は見習うべきだと思った。  
・アイヌ文化環境保全調査室に来ていただいてアイヌ文化について分かりやすく一つ一つ説明していただき、本当に分かりやすくて、いろいろなことを知ることができました。

●参観教員の意見・感想（参観教員：2名）

＜授業内容について＞

- ・テーマの中でも重い軽いなど、特に強調したいところを膨らませる方が印象には残ると思う。
- ・いろいろな要素があつて、一つでも二つでも子供たちが、「あれ面白いな」とか、「どうなんだろう」ということが出てくると、その次に繋がっていくのではないかなと思う。7人のうち、1人ぐらいは踊りに興味を持った子もいたかなと思う。
- ・まだ、これが完成ではないと思うし、これからもいろいろなやり方もあると思うし、そのような中で興味を高めてあげる。「何か面白そうだな」と思えただけで、それでいいのではないかなと思っている。そんな難しく、何を学びとりました、何を覚えましたとかではなく、こういうのが平取町にあると知らなかったことに気づくとか、ちょっと調べてみたいのかなとか、思っただけでもいいと思う。
- ・伝えたいというところはたくさんあるが、なかなか伝えきれないので節目、節目で特徴的なことだけを伝えることが大事だと思う。あとは、出来るだけ体験的な作業とか、自分たちで書き込んでいける形式とかが入ってくるといい。
- ・やはり、地域の文化とか身近な学習素材の何がいいかというと、自分の実体験と繋がってるところがいいと言われている。今日、話したことが家の周りにもあったかなとか、というところに行けばいい。あるいは、今日、家の周りの景色が出てきたとか、そういえばこの景色見たことがあるとか、それはそれで大きな学習成果になる。



＜次回の授業について＞

- ・材料はたくさんあると思うので、あとは出し方とか、伝え方とか。普通、授業はやりとりなので話をしたら、向こうから反応を見ながら授業を進めている。丸木舟を「知ってる」ということになるので、そちらの方向に話が行けたりだとか、結局、そのようなところが普段、授業をして子供との関係を作っている。同じことを教えていても何クラスかあると、学級によって順番が違ったり、興味・関心が高いところや低いところを若干、合わせながら微調整はしている。そのようなところは、これからの課題なのかもしれない。  
1年生は、比較的反応は返ってきやすい学年だと思う。少しふってあげるといいのではないかなと思う。
- ・どうしても一時間という時間の中なので、あれもこれもと考えてしまうが、基本的には、1年生であれば地理的な内容であるとか、身近な地域というもので、環境問題に触れておくとか、身の周りの地理的な要素について触れておくとか、そのようなことをやっておいて、2年生では歴史的な課題にするとか、段階的に変えていけばいいと思う。

＜今後に向けて＞

- ・せっかく、このような写真がたくさんあるので冊子ができれば良いと思う。
- ・例えばこれに授業を少しくっ付けると立派な1年生から3年生まで通しての資料やテキストになると思う。

**D. 関係機関等を対象とした意向調査**

今年度（H22年度）は、今後の地域文化の保全対策に向けて、関係機関等を対象に意向把握を行いました。収集した意見や考え方をとりまとめた結果を提示します。

ア) 北海道アイヌ協会平取支部支部長との懇談	イ) 二風谷地域の方との懇談	ウ) 地域の教職員の方との懇談
主な懇談内容	主な懇談内容	主な懇談内容
<p>●成果の普及・公開、データベースの考え方・取り組み方について</p>  <p><b>【普及・公開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>普及方策に関する資料やアイヌ文化について、有識者に意見を聞くことが大切だと思う。</li> <li>まずは、アイヌ協会平取支部に見たり、聞いてもらったりして、解釈や補足する部分などの意見をもらった方が確信を持って、みんなに広めていけるのではないかな。</li> <li>ある程度きちんとみんなに分かりやすく、興味を持ってもらえるようなものを作って欲しい。</li> </ul> <p><b>【データベース】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今、進めているのは、基礎を作り上げている段階。平取でアイヌ文化を研究する際に必ず見るものになる。いろいろな人の意見を聞いて、納得出来る形にして欲しいと思う。調査室の役割は大きい。</li> <li>普及、公開と同じように、有識者やアイヌ協会平取支部に意見を聞きながら進めるようにする。</li> <li>平取のアイヌ文化を知りたいときに、このまずデータベースを使うということになる可能性もあるので慎重に行ってほしい。</li> </ul>	<p>●二風谷の人たちを対象とした今後の地域文化の普及・啓発の試みについて</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>二風谷地域としては、子供会やアイヌ語教室などで地域文化の普及・啓発に向けた試みの可能性はあるかもしれない。</li> <li>現在、アイヌ語教室に通っている中学生を対象とした講座などはどうか。</li> <li>調査室とジョイントという形で、調査室の資料を活用する場合は、一度どのようなものが活用できるのか見せてもらいたい。</li> <li>地名を中心にするのであれば、小学生や中学生を対象に二風谷周辺～荷負辺り（ウカエロシキ～オプシヌプリ）まで散策するなども考えられる。</li> <li>小学生が中心なので夜の講座は、少し厳しいのかもしれない。</li> <li>場合によっては、土曜日か日曜日などだったら可能性はある。</li> </ul>	<p>●地域の教職員の人たちを対象とした地域文化の普及・啓発の試みについて</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば社会科部会でアイヌ文化に興味を持っている方に声をかけて、アイヌ文化情報センターに集ってもらい、パンフレットの趣旨など、これを教材とした学習会などが可能かと思われる。その中で意見交換とか出来るのではないかな。</li> <li>パンフレットを使ったワークショップは、期待出来ると思う。</li> <li>調査室から声掛けがあった方が参加しやすい。</li> <li>案内を出してもらえれば、声掛けは出来ると思う。</li> <li>前年度（H21年度）の試行調査（実技講習会）は、とても好評だった。</li> <li>潜在的には、学びたいと思っている先生方もたくさんいるので、そのような機会があると非常に勉強になる。</li> </ul>